

ウッディチキン／関西総会

『例会レポート 139』

日 程	2019年2月6日(水)
会 場	ダリア関西 〒530-0057 大阪市北区曾根崎 2-12-7 清和梅田ビル7F TEL 06-6948-8858
参加者数	約 104 名 (内県外 25 名)
講演会内容	受付 18:30~ 講演時間 19:00~21:30 テーマ「懸命に生きる人々～日本人こそ学んでほしい」 (社) アジア支援機構代表理事 池間 哲郎氏
親睦会	22:00~



ウッディキッチン事務局

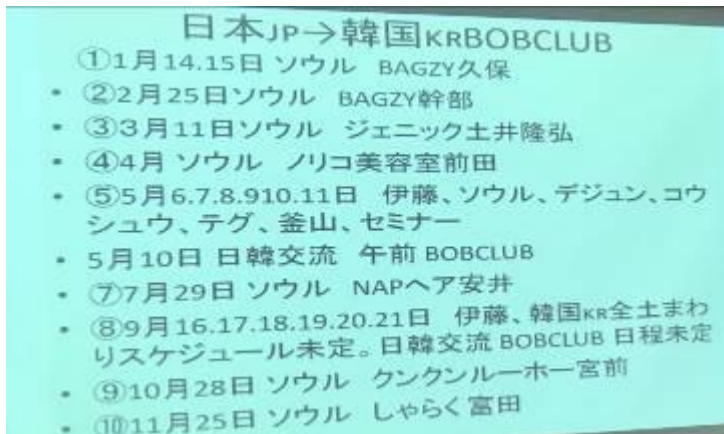
文章・写真提供／向井 健介

今年初めてのウッディチキン例会は、今回の関西総会でスタートしました。
寒い中、100名を超える参加者の方にお集まりいただきました。



伊藤代表 報告

- ・フィリピンの報告
- ・ウッディ中部の代表が、ジグソーの増田さんからナップヘアの安井さんに 2019 年から交代します。
- ・西日本豪雨の報告
120 万円集まりました。
- ・あけぼの学園の報告
今年から、校長先生が変わったので支援の幅を広げていけることができる。
- ・韓国との交流



スケジュールなどは、今度にてメールでご案内させていただきます。

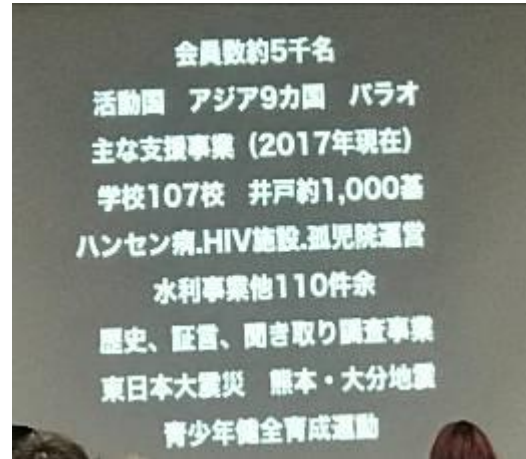
- ・マンダムの榎本さん(伊藤さんのマンダム時代の後輩)
現在マンダムのベトナム支社に勤務中。ベトナムの現状や観光スポットなどお話ししていただきました。
- ・課題図書
今年も、毎月一冊づつご案内します。

講演テーマ「懸命に生きる人々～日本人こそ学んでほしい」

講師 池間哲郎氏 (社) アジア支援機構代表理事

【池間哲郎先生講演要旨】

世界にはきれいな水が手に入らず、汚れた水で生活していて子どもがどんどん死んでいく国がたくさんある。また、食べ物を手に入れるために朝から晩まで働く子供たちがいる。そうした国の人々から日本人は尊敬されている。それを知り、子供たちに自信と誇りを持って生きていって欲しい。



日本のことを知らない日本人

私は映像制作会社を経営するかたわら、アジアの子供たちのために支援活動をしている。これまで4000回以上の場所でお話をしてきました。

主だった国世界 20ヶ国での調査がありました。日本の子供たち「あなたは学校の先生を尊敬しますか？」の質問に、21%がイエスで断トツ世界最下位です。下から 2 番めの国でさえ 70%を超えているのに。世界平均は 80%を超えています。教師を尊敬しない国家は必ず滅びると言われています。

同じく「あなたは両親を尊敬しますか？」の問に、日本の子供は、わずか 25%が尊敬すると答えました。世界平均は 90%。**日本の子供たちは尊敬すべき人達を尊敬できなくなっています。**

それは大人の責任。自信のない子が多いです。海外に出ている子供たちを大勢見っていますが、日本人であることを隠す若者が増えています。「海外の人からよく思われていない」、「アジアの人達から嫌われている」と思っている子が多いからです。これは彼らがそう思われてきたため、特に日本の隣の 3 つの国が徹底的に反日教育をしています。

しかし他のアジアの国々は日本が大好き。アフガニスタン・パキスタンの人々は**恐ろしくい日本人を尊敬しています**。インド・ネパール・スリランカの人々は日本を信頼して愛してくれています。ベトナム・タイ・カンボジア・ミャンマーでも日本を尊敬しているのです。

200 回近くアジアの様々地域に出かけて行って、観光地ではない土地で人々と触れ合っそう感じています。私は沖縄出身で色も黒い顔立ちもフィリピン人などに間違えられるから、日本人であることを隠して聞いて回りましたが、**日本を悪く言う現地の人**は**ほぼゼロ**。悪口をいうのは、かつて白人と一緒に日本と敵対した中華系の人達。

でも、元々その土地に暮らしていた人達はみんな日本が大好き。日本に感謝している人達がいっぱいいます。おじいちゃん、おばあちゃん、日本が白人を追い出してくれたという人達がたくさんいます。でも、そんなことを誰も日本では教えてくれません。まず**お母さんたちが、日本は素晴らしい国だと自信を持って下さい**。

東日本大震災が起きた時に、すぐに戻ってきて被災地で支援活動を始めました。すると、あれだけの被害を受けてみんな大変な時に、日本の人達は列を作って物資を受け取るために並びました。小さい子供が寒さに震えながら並んで待っていました。しかし泣き出す子はいませんでした。

支援のために何をしたら良いか決めようと、避難所の人達に聞くと、多くの方が自分たちより困っている人達を先に助けてくれと言いました。これは凄いことです。海外で騒乱に巻き込まれたことがあるからよくわかりますが、海外でこうした災害が起きると、暴動や略奪などがすさまじい。個人主義でみんな自分が大事。

ネパール地震の様子が報道されているけれども、テレビには映らないところで奪い合いが生じています。支援物資の取り合い、殴り合いが起きるのです。日本とは全く違う。日本だけがそんなことにならない珍しい国。

高校生にこの話をすると、子供たちの背筋がピンと伸びてくる。日本人として誇りを持って欲しい。**自分の国に誇りを持たない人間を、世界では誰も相手にしません。**

世界の国々の貧しい人達の暮らし

■ミャンマー

軍事政権下で非常に難しい状況におかれています。ミャンマー人は子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで、みんな日本人が大好き。100年以上イギリスの支配にあり、多くの人が虐殺されました。それを日本がミャンマー人と一緒に戦ってイギリス人を追い出したことを、みんなが良く知っているから日本を尊敬しているのです。

軍事政権下で田舎の村に入ることは許されないのですが、助けてくれと呼ばれたのでこっそりと村に入りました。彼らは水に困っていた。人間が飲めるようなきれいな水がありません。汚い川の水を汲んで調理に使う。井戸を掘るのも道具と技術がないので浅い井戸しか掘れず、きれいな水が出ないのです。

雨季の半年間は雨水を水瓶にためて飲みますが、ボウフラが湧いています。乾季は水量が減ってさらに汚い泥水を飲むしかありません。だから水を介して病原菌に感染して子供たちがどんどん死んでいきます。腸チフス・赤痢・コレラなどが蔓延しています。

深い井戸を掘ってきれいな水が出ると子供たちが驚きます。「こんなきれいで透明な水は見たことがない！」と水浴びを始めます。どこへ行ってもそう。もちろん、おとなたちも驚くほど喜びます。井戸ができたことで村をあげてのお祭り騒ぎ。村中から日本の人にお礼を言いたいと集まって来ます。

水質は子どもの命に直結します。泥水を飲んでいて病気にかかったら赤ちゃんは一発で死んでしまう。子どもの致死率が高いから、子沢山になるのです。きれいな水が安定して飲めるようになると、子どもの死亡率が極端に下がり、子供の数は減ってきます。

日本人があたりまえだと思っているきれいな水を手に入れることが世界では難しい。11億を超える人が汚い水しか飲めません。15秒に1人の子どもが死んでいきます。

きれいな水が手に入り、なんとか食べるものもあるとなれば、次に必要になるのは教育です。そこで私たちは田舎の土地に小学校を建てることにしました。貧しい国では地域でお金を出し合って校舎を立てたら国が教師を派遣してくれます。**お金がないと学校はできない**のです。道がないから建築資材が車で運べません。そこで村の大人からこどもまで総出で作業して完成に漕ぎつけました。

ミャンマーの英雄アウンサン将軍が日本に留学したことを誰もが知っています。だから、アウンサン将軍のように日本に留学していっぱい勉強してこの国のリーダーになりたいと願っています。ミャンマーの子供たちは、先生や親の言うことを聞く時には、ピシっとした姿勢で聞きます。大人を敬うことを知っているから。鉛筆やノートを手に入れることが大変。何も持たない子どもは、先生の言うことを聞き漏らすまいと真剣に授業を受けます。

家に帰ると子どもは家の仕事をします。途上国ではお手伝いはないのです。みんな「私の仕事」と言います。**家事を分担しない国は世界中で日本だけ。**どんな仕事でもよいから、子どもに役割を与えるべきです。

日本を知って日本人としての誇りを取り戻そう！

私がなぜこの運動をしているのか。こうした人達の笑顔を見るだけで十分なのです。人を愛することがなぜ大事かという、それは命が生きるからなんです。誰かを助けてあげる、やってあげているという気持ちはゼロではないが、**子供たちや人々から人間として大事なことを教えてもらうためにやっています。**

自分は弱い人間だから、辛いことから逃げたい楽をしたい。でも、こんな子供たちを見たら、そんなことは言っていられないでしょう。自分の腕の中で亡くなった子供たちを思い出して、今日もちゃんと生きていこうと毎日誓っています。

教え子は2千名を超えています。多くの若者を見てきていますが、子育てで、**子どもを溺愛・過保護にしては絶対にダメ！！**感謝を知らない大人になります。なんでも、やってもらうのが当たり前と勘違いします。

感謝こそ生きる力。感謝知らずは幸せを感じない人。愛情には厳しさが伴います。親は子どもに好かれようとしないこと。子供を自立した大人にすることが親の役目です。

こうした運動をする時に気をつけていることは、相手のことを理解することです。**余ったものをあげるのではなく、大切なものを分ける**という気持ちが必要です。だから、個人的な(物質的な)感謝は一切受け取りません。受け取ると傲慢になってしまいます。

子育てにおいて一番大切なことは何でしょうか？それは、お父さん、お母さんが真剣に生きる姿を子どもに見せることです。

日本人は、あまりにもわからないことが多すぎます。

日本人はアジアから嫌われていない、好かれているのに。

日本が卑怯な手段で真珠湾攻撃をしたと教えられていますが、戦争を避けようとして努力したにも関わらず追い詰められて戦争をしたのです。

歴史で習った大航海時代はウソ。大虐殺時代と言うべきです。マゼランやコロンブスは船で乗り付けて、現地人を虐殺しまくりました。世界中がそうでした。

アメリカでも94%のネイティブアメリカンが殺されました。彼らは誇り高く日本人と似たところがありました。有色人種は家畜と同じ扱い。だからオーストラリアではアボリジニを狩りとして殺しました。有色人種が自分の力で自分を守ったのは日本だけです。

欧米人は植民地を支配するのに、現地の少数民族を利用して間に立たせて支配しました。日本人は学校を建て、現地人に教育をほどこし、一緒に国を動かしていたのです。

だから、日本の植民地時代を知っている、東南アジアのおじいちゃんおばあちゃんたちを探しまわって、聞きまわりました。すると、日本人の悪口を言う人は、ほとんどいません。もちろん中にはひどい人間もいたことは確かです。でも、それはごく一部。

ラオスの山奥で聞きました。日本人は軍規も厳しく、まるでみんなお坊さんみたいだったと言います。ところがフランスの植民地時代のことを聞くと、言葉を荒らげて「あいつらはひどい」と大声で言うのです。

パラオという太平洋のミクロネシアにある国をご存知ですか。パラオはスペイン統治時代に虐殺と持ち込まれた天然痘で90%の人口が減りました。第一次世界大戦後日本が国際連盟から委任されて統治しました。侵略したわけではありません。多くの日本人が移り住み、インフラを整備して現地の子供たちも学校で教育をしました。今でも多くの日本語がパラオに残っています。

太平洋戦争のペリリューの戦いで日米両軍に多くの戦死者を出したが(日本軍は全滅)、パラオの民間人の死者はでませんでした。現地人を巻き込まないようにしたから。パラオの守備には高崎の第十五歩兵連隊があたっていたのです。だから、今でもパラオは世界一の親日国。

日本の子供たちには、こうしたことを知って誇りを持って欲しい。誇りを持つと腹が座る。腹が据わると覚悟ができます。お父さんお母さんの役割は、自立した子どもを育てること。お父さんお母さんが毎日真剣に生きることが大切です。

懇親会





ウツディ事務局 向井健介